

第4回東京くらし方会議 意見交換 **議事概要**

- 日 時 令和5年8月30日（水曜日） 午後4時33分から午後6時13分まで
- 場 所 都庁第一本庁舎42階 大会議室
- 出席者 権丈座長、小室委員、鈴木委員、炭谷委員、辻委員、村田委員、森信委員

[議事要旨]

東京でくらし働く人々に関わる様々な社会の仕組みや企業の現場、家庭も含めた状況について、小室委員、鈴木委員のプレゼンテーションの内容への意見、感想、委員ご自身の知見等を含め意見交換

[主な意見]

<長時間労働の是正など働き方改革について>

- ・ 自分たちの働き方を変えた結果、下請け企業が長時間労働になる等、しわ寄せがいかないようにする配慮も必要。
- ・ 深夜勤務が必要な業種等、様々な勤務形態があるが、勤務間インターバルはどの時間帯でも使える有効な制度。
- ・ 労働時間を減らし成果を上げるために、職場での知恵の出し合いやイノベーションが大事。
- ・ 携帯、Wi-Fi、PCもない時代と現代とでは、労働環境が変わっているのに、労働時間が減らないというのは考えられない。
- ・ 歴史的にみて労働時間は概ね40年周期で変わっており、週休2日制が取り入れられた1980年代後半から考えると、今が働き方を変えていくタイミングだ。

<様々な事情を抱える女性への支援について>

- ・ ひとり親や難病等様々なハンディを抱え、希望する仕事に就けない女性も多い。ダイバーシティの問題で、女性の活躍を支援する際には、こうした層への配慮も必要。
- ・ ひとり親家庭では深夜勤務が難しかったり、短時間しか勤務できなかったりする場合がある。その人の状況にあった働き方を用意するなどきめ細かな対応が重要。
- ・ インクルーシブな就労に対応していない日本の社会保障制度について、都が国に対して改善を働きかけるべき。
- ・ 少子化の原因の一つは、結婚や出産に伴う女性のキャリアダウンによる収入減であり、女性が仕事を諦めなくてもいい社会が必要。
- ・ ライフイベントによるキャリアの中断が発生するL字カーブは顕在。このあたりをもう少し議論するべき。

<効果的な政策の手法等について>

- 取組の定着には、「育業」といった、覚えてもらえる、親しみがもてるネーミングの設定や伝え方が大事。
- 10年間で国の家族支出は2倍になったが出生率は上がっていない。本会議のようにお金以外で多様な議論ができる場というのは良い。
- 現金給付に偏らず、現状をどう変えていくか情報を共有し、知恵を出し合うことが大事。
- 「何をすべきか」はもう分かっている。「何故変わらないのか」を考えないと、変えられない。